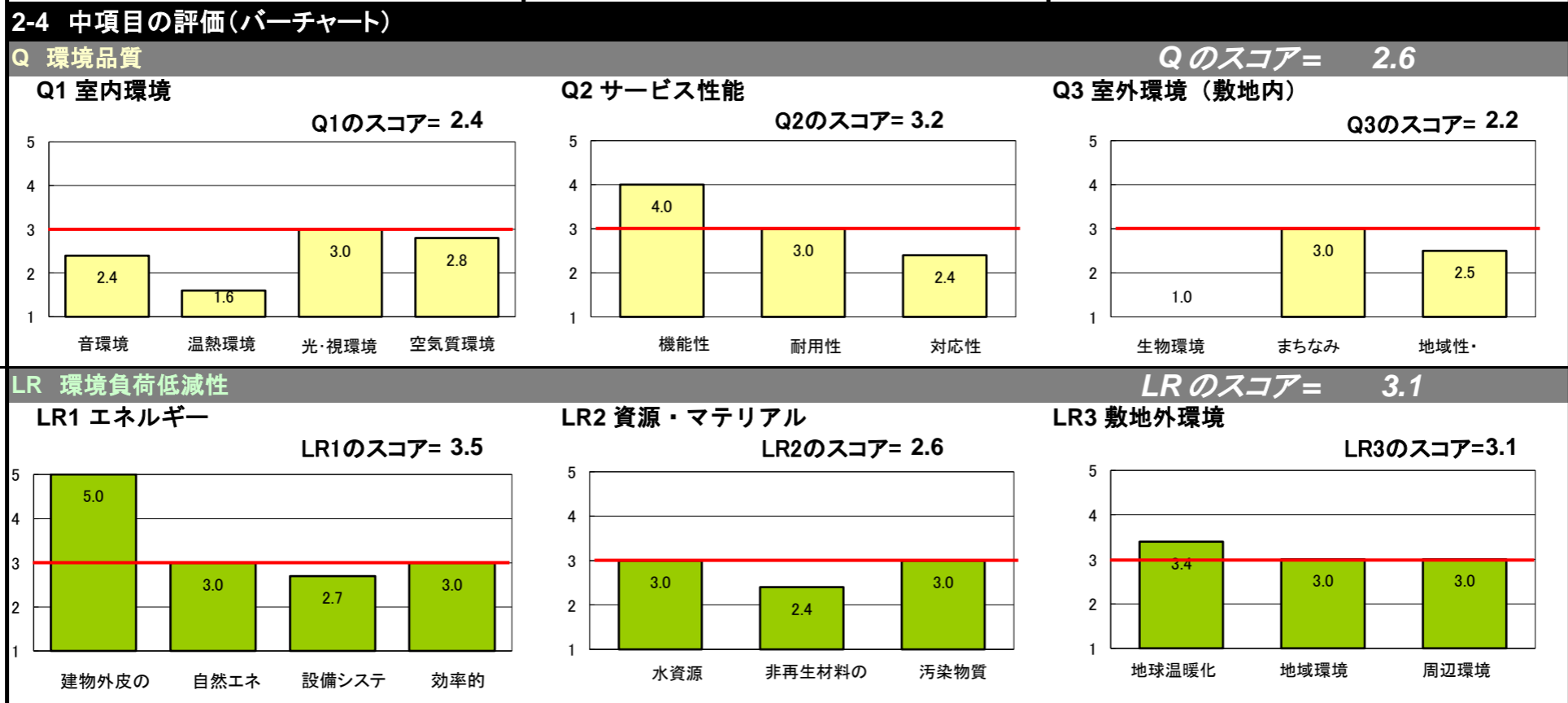
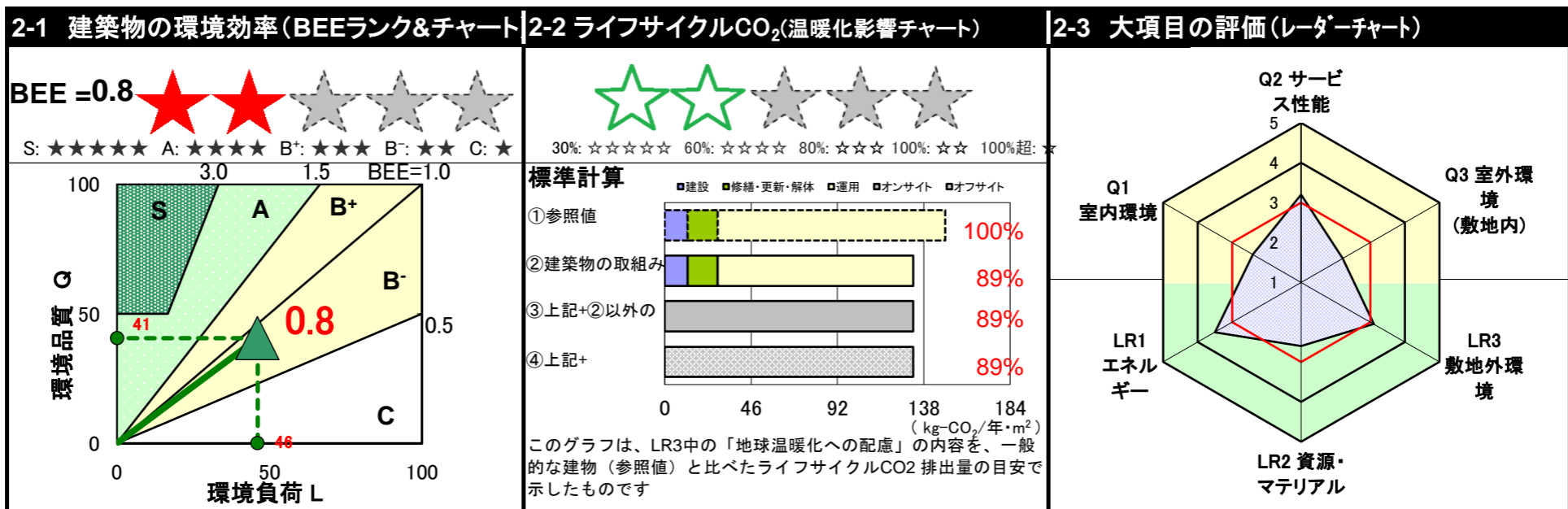


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)第6特別養護老人ホーム	階数	3階建
建設地	愛知県北名古屋市九之坪世界109、110、111、112、113、114、118-1、122、123、124、125、126、127	構造	RC造
用途地域	指定なし	平均居住人員	170人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2020年10月 予定	評価の実施日	2020年7月29日
敷地面積	8,545 m ²	作成者	後藤 豊城
建築面積	2,836 m ²	確認日	2020年7月31日
延床面積	6,065 m ²	確認者	那須 明



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>10.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階										
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数					
Q 建築物の環境品質										2.6		
Q1 室内環境						0.40				2.4		
1 音環境						0.1	2.7	0.15	2.3	2.3	1.00	2.4
1.1 室内騒音レベル						3.0	3.0	0.40		3.0	0.40	
1.2 遮音						0.4	2.4	0.40		2.3	0.40	
1 開口部遮音性能							3.0	0.40		3.0	0.30	
2 界壁遮音性能							2.0	0.60		2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							3.0	-		2.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							3.0	-		2.0	0.20	
1.3 吸音							3.0	0.20		1.0	0.20	
2 温熱環境						0.3	1.7	0.35	1.5	1.5	1.00	1.6
2.1 室温制御						0.5	2.5	0.50	2.1	2.1	0.50	
1 室温						3.0	3.0	0.38		3.0	0.57	
2 外皮性能						3.0	1.0	0.25		1.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	3.0	0.38		-	-	
2.2 湿度制御						3.0	1.0	0.20		1.0	0.20	
2.3 空調方式						3.0	1.0	0.30		1.0	0.30	
3 光・視環境						0.2	3.0	0.25	3.0	3.0	1.00	3.0
3.1 昼光利用						0.3	4.2	0.30	4.2	4.2	0.30	
1 昼光率						3.0	5.0	0.60		5.0	0.60	
2 方位別開口							-	-		1.0	-	
3 昼光利用設備						3.0	3.0	0.40		3.0	0.40	
3.2 グレア対策						0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30	
1 昼光制御						5.0	3.0	1.00		3.0	1.00	
3.3 照度						3.0	1.0	0.15		1.0	0.15	
3.4 照明制御						3.0	3.0	0.25		3.0	0.25	
4 空気質環境						0.2	3.1	0.25	2.7	2.7	1.00	2.8
4.1 発生源対策						0.5	3.0	0.50	3.0	3.0	0.63	
1 化学汚染物質						3.0	3.0	1.00		3.0	1.00	
4.2 換気						0.3	2.0	0.30	2.3	2.3	0.38	
1 換気量						3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
2 自然換気性能						3.0	-	-		3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	1.0	0.50		1.0	0.33	
4.3 運用管理						0.2	5.0	0.20		-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	-	-		-	-	
2 喫煙の制御						3.0	5.0	1.00		-	-	
Q2 サービス性能								0.30				3.2
1 機能性						0.4	3.4	0.40	4.4	4.4	1.00	4.0
1.1 機能性・使いやすさ						0.4	3.0	0.40	5.0	5.0	0.60	
1 広さ・収納性						3.0	-	-		5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応						3.0	-	-		-	-	
3 バリアフリー計画					独自	3.0	3.0	1.00		-	-	
1.2 心理性・快適性						0.3	4.0	0.30	3.5	3.5	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)						3.0	-	-		3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						3.0	-	-		-	-	
3 内装計画						3.0	4.0	1.00		4.0	0.50	
1.3 維持管理						0.3	3.5	0.30		-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	4.0	0.50		-	-	
2 維持管理用機能の確保							3.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性						0.3	3.0	0.31				3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						0.4	3.0	0.48				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能						3.0	3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数						0.3	3.0	0.33				
1 躯体材料の耐用年数							3.0	0.23				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					②		2.0	0.23				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							4.0	0.09				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							3.0	0.08				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							4.0	0.15				
6 主要設備機器の更新必要間隔							3.0	0.23				
2.4 信頼性						0.1	3.0	0.19				
1 空調・換気設備						3.0	3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備						3.0	3.0	0.20				
3 電気設備						3.0	3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法						3.0	3.0	0.20				
5 通信・情報設備						3.0	3.0	0.20				

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	2.1	2.1	1.00	2.4	
3.1 空間のゆとり				0.3	3.0	0.31	2.2	2.2	0.50		
1 階高のゆとり				-	3.0	0.60		3.0	0.60		
2 空間の形状・自由さ				3.0	3.0	0.40		1.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		2.0	0.50		
3.3 設備の更新性			②	0.3	3.0	0.38		-	-		
1 空調配管の更新性				-	3.0	0.17		-	-		
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17		-	-		
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11		-	-		
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11		-	-		
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22		-	-		
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22		-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30		-	-	2.2	
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	1.0	0.30		-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40		-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30		-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	3.0	0.50		-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50		-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性										3.1	
LR1 エネルギー						0.40				3.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制				熱負荷に対する外皮性能の向上に努めている。			3.0	5.0	0.30		5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20		-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化				3.0	2.7	0.30		-	-	2.7	
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-		
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50		-	-		
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50		-	-		
集合住宅の評価				-	-	-		-	-		
4.1 モニタリング				-	3.0	-		-	-		
4.2 運用管理体制				-	3.0	-		-	-		
LR2 資源・マテリアル						0.30				2.6	
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15		-	-	3.0	
1.1 節水				3.0	3.0	0.40		-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-		
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.4	0.63		-	-	2.4	
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07		-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24		-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	3.0	0.20		-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	0.20		-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05		-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	3.0	0.24		-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22		-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68		-	-		
1 消火剤				-	-	-		-	-		
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50		-	-		
3 冷媒				3.0	3.0	0.50		-	-		
LR3 敷地外環境						0.30				3.1	
1 地球温暖化への配慮			①	省エネ性能の向上に努めることによりLCCO2の削減に努めている			-	3.4	0.33		3.4
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0	
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25		-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50		-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25		-	-		
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25		-	-		
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25		-	-		
3 交通負荷抑制			独自	-	4.0	0.25		-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25		-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-		
1 騒音			独自	-	3.0	1.00		-	-		
2 振動			独自	-	-	-		-	-		
3 悪臭				-	-	-		-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-		
1 風害の抑制				-	3.0	0.70		-	-		
2 砂塵の抑制				-	3.0	-		-	-		
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30		-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	3.0	0.70		-	-		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30		-	-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)第6特別養護老人ホーム

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				2.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:10.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)第6特別養護老人ホーム

計画上の配慮事項	
総合	利用者・職員にとって良好な住まい、また周辺環境に調和するような建物を目指して計画しました。
Q1 室内環境	採光を十分に確保するよう窓寸法を決定し、良好な室内環境となるように努めました。
Q2 サービス性能	建物の意匠性をイメージボード等から検討、耐久性の高い仕上材を使用する等。良好な室内環境となるように努めました。
Q3 室外環境(敷地内)	使いやすく、維持管理もしやすい建物となるように努めました。
LR1 エネルギー	省エネルギーに配慮した計画としました。
LR2 資源・マテリアル	節水コマの採用、なるべく再生可能資材の利用に努めました。
LR3 敷地外環境	環境配慮に関する条例基準に適合するように努めました。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。